



# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 20 | Issue 4 | June 2017

## ➡ In this issue...

- ▶04...ISA試験結果
- ▶07...「賢い選択をするため」の集会
- ▶09...K1家庭訪問
- ▶10...K2Aでの早期リテラシー目標
- ▶12...K3での缶詰体験
- ▶17...Waterloo数学コンテスト
- ▶18...G11 DP 美術校外学習
- ▶20...KISTでのアカデミックライティング
- ▶21...Middle School Brain Bowl
- ▶22...MYPパーソナルプロジェクト・エキシビション
- ▶23...G9キャンプの振り返り
- ▶31...震災支援

「幸福の秘訣は、自分が好きなことをするのではなく、自分がしていることを愛すること、である。」  
—James M. Barrie

## 学校長より

### 20年の時を重ねました!

KISTの創設20年目は多くの出来事に溢れたものでした。5年毎に行われるIB評価訪問を終え、更にはKISTの歴史に新たなページを刻むCIS(インターナショナルスクール会議)の完全認可などの出来事がありました。これら大きな達成事はコミュニティ全体の学校を更に発展させるための協力体制と努力の賜物です。これら評価・認可訪問の準備や実際の訪問時に貢献してくださった皆さんに感謝致します。これら非常に大きな偉業を達成したことをお互いに誇りたいと思います。

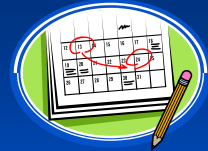


この記事を書いている今、2017年度卒業クラスの生徒達がDP試験を終えたところです。12年生が試験の緊張から解かれ、のんびりと校内で過ごしているのを見ることを嬉しく思っています。今学年度のはじめに2016年度卒業生が前年度の卒業生(2015年度生)のDP平均点を更に上回り平均点37を達成したとお知らせしました。もし、現12年生の合格率がDP試験結果の指標となるならば、今年も非常に良い成績を残せたのではないかと考えております。現段階で学校が受け取った合格通知によると、英国に出願した12年生のうち、2名を除いて出願したすべての大学に合格しており、米国への出願者は合計17の奨学金つきの合格を獲得しています。KIST生が獲得した奨学金(つき合格)は合計で26となっています。また今年で2年連続KIST生がUniversity of New York in Abu Dhabiのフル奨学金(生活費・諸経費、学費、住居、寮)付き入学許可を得ています。7月のDP結果を受け取るのが今から楽しみです(またKISTの記録を塗りかかかも?)KISTを卒業し、新たな道への第一歩を踏み出す全ての卒業生にお祝いを申し上げます。学校コミュニティは皆さんを大いに誇らしく思っています! 皆さんのご多幸をお祈りするとともに、KISTを卒業してからも皆さんから新たな生活や体験について連絡を頂くことを楽しみにしています。

今年もKIST生たちは多方面での才能を発揮してくれました。The Cometでは生徒の活躍や、様々な活動について、できるだけご報告できるよう配慮しています。皆さんもこれら記事を楽しんでくださっていることと思います。先号の発行以来、KIST生たちはUniversity of Waterloo主催の数学コンテストで非常な好成績(参加した9名中8名が世界のトップ25%の成績を獲得)を挙げました。また、23名がWorld Scholar's Cupに参加し、90以上の賞を獲得して凱旋しました。更には今年初めて幾つかのテクノロジー系の競技会にも参加しました:ロボティクスクラブの生徒たちはLego Sumo Competitionで入賞し、プログラミングクラブはバナナで操作できるビデオゲームを開発し、競技会で優勝しました!今号のThe Cometで皆さんにもKISTでの様々な出来事について知って頂き、今年もまた素晴らしい一年であったことを共に喜びたいと思います。

次のページに続く

## DATES TO REMEMBER



### June 2017

- 12-13 (G9) Career experience with KIST program
- 14 (S) Secondary awards assembly
- 14 (G10) Promotion ceremony
- 14 (K1-G11) Semester 2 reports issued
- 14 (W) Last day of school for students (Half day for students)
- 14 (K1-G2) After care not available on this day
- 15-30 Office open
- 19-30 Summer program session 1

### July 2017

- 1-30 School closed
- 31-Aug 11 Summer program session 2

### August 2017

- 17 (K1/K2/K3) Parent welcome night
- 21 First day of school for all students
- 22 (G1-G10) Mathematics diagnostic testing
- 23 (G1-G5) Parent welcome night
- 24-25 (G2-G5) English diagnostic testing
- 25 (G6-G12) Parent welcome night
- 25 (G12) University information night
- 28 (K2-G3) After care begins



PYP | MYP | DP

## 前ページの続き

学習面では、生徒たちは学校全体で非常に優秀な成績を修めています。より多くの生徒が算数・数学と英語において学校の期待値に到達しています。また、全ての10年生が毎年PSATを受験しますが、今年も生徒たちは優秀な結果を修めました。昨年の結果も良好でしたが、今年は更に良く、10年生全体の80%近くが数学で70%/点以上、その内、54%(去年は52%)が90%/点を獲得しました。PSATの総合成績ではG10の38%(去年は33%)が90%/点以上を獲得しています。詳細については以下より学校ホームページをご覧ください。統一テストの評価データを載せています ([Learning > Academic performance](#))。

KISTの達成事はどれも生徒、保護者、そして教職員の努力とサポート無くしてはあり得なかったものです。学校を代表して2016-2017年度にKISTをサポートして下さった全ての皆さんに**大きな感謝**を捧げます。また、学校コミュニ

ティ全体が学校行事に関わることが出来るよう、率先して活動して下さるコミュニティアソシエーション(CA)の皆さんにも特に感謝致します。教育を通して世界的なコミュニティをよりよい場所にするために、このような協力的なコミュニティのサポートを学校の各分野で受けることが出来るKISTはとても幸運です。

皆様が素晴らしい、安全なお休みを過ごされることを願っています！皆さんと8月21日にまたお会い出来ることを楽しみにしています。

**Jeffrey Jones**  
Head of School



## 2017年度卒業生の皆さんおめでとうございます！

KISTは毎年勤勉な生徒たちを世界中の大学に送り出すことが出来るのを誇りに思っています。KISTでIB教育を受けた彼ら・彼女らは世界中の名門大学で学習するのに十分な実力を身に着けているだけではなく、世界をよりよい場所にするための貢献ができる人材に成長したと確信しています。

KIST2017年度卒業生の皆さん、おめでとうございます！皆さんがKISTでの思い出を大切にしつつ自信と誇りを持って前に進むことを願っています。皆さんが、長い(生涯学習)の新たな第一歩を踏み出すにあたり、皆さんをいつでも支え、応援し、成功を共に喜ぶKISTコミュニティが後ろに控えているのを忘れないで下さい。

皆さんのご多幸を祈ります！



## ニューフェイス

前号の*The Comet*発行後にセカンダリースクールに3名の新しいスタッフを迎えました—実験及び図書助手の**Erika Karasuyama**、8月から数学科教師として着任予定で、現在は代用教員その他の業務を行っている**Kei Komaki**、そして新しいELSインストラクターの**Douglas McGillivray**です。

学校コミュニティを代表して皆さんを歓迎し、新しい職務でのご活躍をお祈り致します。



**Erika Karasuyama**  
Laboratory and  
Library Assistant



**Kei Komaki**  
MYP/DP  
Mathematics



**Douglas McGillivray**  
ELS Instructor  
(Secondary)



## 理事長よりご挨拶

恒例の年度末行事であるファミリーデー、G12の卒業式、そしてコンサートを無事に終え、今学年度も残すところ後少しとなりました。

さて、親の地位や経済的状況に恵まれた子どもたちのみならず、様々な背景を持つ子どもたちに質の高い教育を受けるチャンスを提供し、学校を巣立った子どもたちが社会に出て世の中のために貢献して欲しいとの私たち夫婦の思いを実現するために私財を投入し1997年にKISTを開校し、早いもので今年創立20周年を迎えました。

20年を振り返りますと、学校のミッションやビジョンを達成するための道のりは平坦ではなく、大きく廻り道をした事もあり、大変ではありましたが目標に向け学校をより強固なものにするために、良い経験を積んできたと思います。

2014年8月、Mr Jonesが学校長に就任し、エレメンタリースクール校長Mr Yoshihara、副校長 Mr Bradley、セカンダリースクール校長Mr Cowe、事務局長の内藤佐代子、アドミッションとパーソネルディレクターのMr Larsenと共に強いリーダーシップを発揮し、優秀な心温かい教職員やミッションを共有する協力的な保護者の方々に恵まれたことで、ミッションやビジョンの達成に向け、短期間で大きく躍進することが出来ました。心より感謝申し上げます。

KISTは教職員や保護者の方々をはじめとする、KISTコミュニティの皆様を支えられて、日本で屈指のインターナショナルスクールにまで成長することが出来ました。KISTコミュニティの皆様これまでの感謝の気持ちをお伝えしたく、KISTらしいお祝いの記念行事を催したいと考えています。

そのうちのひとつとして、毎年の恒例行事であるKISTivalをお休みし、これまで支えてくださった保護者を始めとするKISTコミュニティの皆様への感謝として、K.20 Celebration (K.20感謝祭)と題した特別な記念イベントを開催します。

KIST在校生のご家族、卒業生や在籍していた方とご家族、そしてKISTを支えてくださっている方々等をご招待し、私たちスタッフと在校生が中心となり、KISTコミュニティ全体でお祝いするイベントを企画しています。皆様に十分に楽しんでいただけるK.20感謝祭にしたいと思いますので、どうぞお楽しみに。

Yoshishige Komaki  
Board President

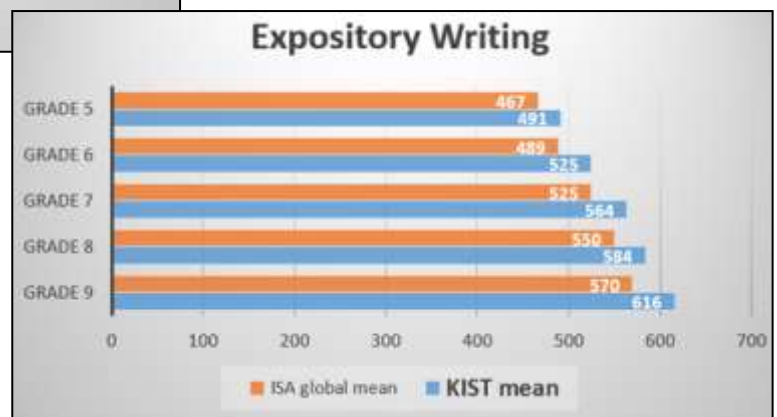
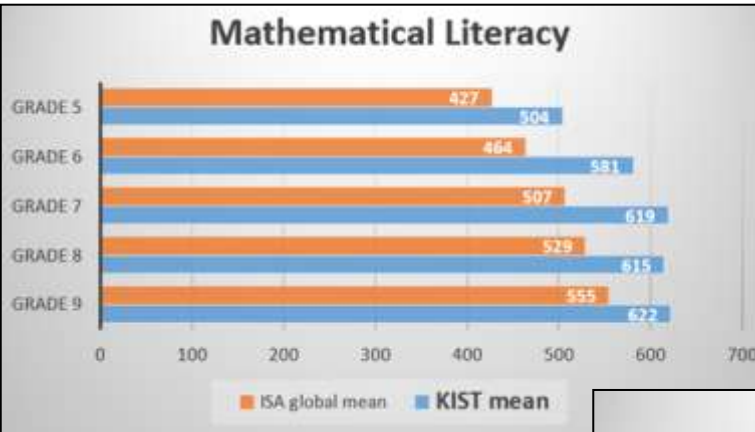




## ISA試験結果



ISA (International School Assessment・インターナショナルスクール評価) テスト結果がまとめられましたので、近日中に各ご家庭に送られる予定です。以下はKISTの2016-2017年度の結果を分野ごとに世界平均と比較したものです。今年もKIST生の結果は非常に良好で、全学年・全分野で世界平均(オレンジ)を超えていました(KISTの点数は青で表示)。ISAの結果はKISTウェブサイト[こちら](#)からもご覧いただけます。(Learning > Academic Performance > ISA)



# WELL DONE KIST!

## 教員評価サポートシステム

### TASS: 教員が更に進化するためのサポートの提供!

KISTでは知性への斬新なアプローチが不可欠であると考えます。意識、理解、振り返りと行動の強化と、継続的なサイクルによって誰もが成長し、改善できると確信しています。この考えは生徒だけでなく、スタッフにも適用されます。KISTでは現状に満足することなく、常に生徒の学習面だけでなく、自身のプロとしての改善・成長を求める教師を雇用しています。



教師の指導の効果測定のために、すべてのKIST教員はTeacher Appraisal and Support System教員評価サポートシステム(TASS)に参加します。この毎年実施される評価システムでは以下6つの基準をもとに効果測定を行います：**professionalism (プロ意識)**、**learning environment (学習環境)**、**instructional planning (指導計画)**、**instructional delivery (授業実施)**、**assessment of/for learning (学習の評価と学習への影響力)**です。

TASSは教師による指導を教師、生徒、アドミニすべてが関与し、評価するための包括的なプロセスです。このシステムは教師を中心とし、教師自身が客観的に自身の指導計画の効果を測り、さらなる改善を目指すことを目的としています。

KIST教員は毎年学校で実施する生徒アンケートのデータ分析を行い、他の教師の授業見学などを通して自身の指導法を振り返り、自身の研修記録をつけ、アドミニや教育リーダーシップチームからの授業見学記録を受け取り、アクションリサーチサイクルを実施します。各教師はTASSの記録を纏めたProfessional Portfolio(専門ポートフォリオ)を作成し、6つの評価基準をもとに行い、その根拠となるポートフォリオの文書とともに提出し、エリア校長及び学校長によって評価が行われます。KISTでは更に上を目指す素晴らしい教員を雇用しています。

## KISTでの職業体験プログラム

### Expanding minds, building dreams 視野を広げ、夢を紡ぐ

昨年の職業体験プログラムの成功をもとに、今年も40名以上の9年生が6月の2日間を都内各地の研修先で過ごしました。生徒たちは自身の興味や関心のある;医療、財務、IT、製造、物流、教育、販売、メディア(テレビ局)、公共サービスなど各分野の企業・団体で実地研修を受ける機会を得ました。



日本語力と日本文化へのしっかりとした理解を有するKISTの卒業生は、グローバル化する日本企業にとって魅力的な人材です。KISTではこれら日本企業や、日本に拠点を置く多国籍企業との長期的な関係を構築することで企業のグローバル化を推進する人材の支援を行えると確信しています。

KISTではこれからも本プログラムの拡張を目指しています。KISTの職業体験プログラムにご協力頂ける企業・団体様にお心当たりがある方は是非ご紹介下さい。ご連絡はメインオフィスの企画マネジャーの本田行則までご連絡下さい。

[yukinori.honda@kist.ed.jp](mailto:yukinori.honda@kist.ed.jp)

本プロジェクトへの皆様のご理解とご協力に感謝致します!



## エレメンタリースクールニュース

### Keeping learning alive!

2016-2017年度も、もう終わりに近づいています。この思い出深い1年を振り返るとともに、もう既に来年度の準備に気持ちが向かっている自分があります！私自身、親として子どもたちが社会的にも学力的にも大きく成長するのを見ることが出来ましたが、夏休み中に学んだことをしっかりと維持し、来年度に向けた準備を行えるように見守る必要があるとも感じています。



Parenting.comのBarbara Rowleyが書いているように、私たちの多くが寒い冬の間、屋外で宿題のない夏休みをダラダラと過ごすことを夢見ていたことでしょう！私たちの多くが夏休みを子どもたちと楽しく過ごすことを希望していると思いますが、oxfordlearning.comによると、「学年度の終わりと、次学年度の間にすべての生徒が夏休みの“学習ロス”の危険にさらされている」ということです。

でも、心配することはありません。夏休み中もお子さんが学んだことを活用するために保護者の皆さんに役立てていただけるヒントがたくさんあります。Barbara Rowleyは次学年度の準備のためにお子さんのカリキュラムを理解することを推奨しています。KISTのProgram of InquiryはKISTウェブサイトからご覧いただけます。次学年度の学習に役立つ活動を考えて実行するのも楽しい夏休みの過ごし方でしょう。

CTVニュースのAngela Mulhollandは教科書を超えた形で算数的な概念を復習することでより楽しく学べると説明しています。算数のビデオを見たり、自分自身が算数に興味を持ったり、オンラインの算数ゲームをすることを推奨しています。詳細は以下、推奨リンクをご確認下さい。

今年度もあと僅かになりましたが、学校コミュニティ全ての方のサポートに感謝申し上げたいと思います。コミュニティの協力により、子どもたちが社会的にも学力的にも成長することが出来ます。皆さんが素晴らしい、学びで一杯の夏休みを過ごされることを願っています！

**Kevin Yoshihara**  
Elementary School Principal

#### 参考:

- Mulholland, A. (2016, July 14). Parenting lessons: How to keep kids math-savvy all summer. Retrieved May 07, 2017, from <http://www.ctvnews.ca/5things/parenting-lessons-how-to-keep-kids-math-savvy-all-summer-1.2986368>
- Rowley, B. (n.d.). Stop summer learning loss. Retrieved May 07, 2017, from <http://www.parenting.com/article/stop-summer-learning-loss>
- Summer learning loss statistics (And tips to promote learning all summer long). (2016, September 26). Retrieved May 07, 2017, from <https://www.oxfordlearning.com/summer-learning-loss-statistics/>

## PYPニュース

### 夏休み: 楽しく学ぶ!

夏休みが近づいていますが、おやすみ中だからと言って学ぶことをやめる理由にはなりません。生活の中で学ぶことは膨大でかつ多様です。夏休み中は、お子さんに学校では出来ない体験を提供するまたとない機会です。例えば、お休み中の家族旅行なども、ほんの少し下調べをや工夫をすることで貴重な教育体験となります。家族旅行で訪れる場所の歴史、地理、名所旧跡、民話や偉人などを調べるだけでより忘れがたい「特別な」旅行となるでしょう。

また、子どもたちに社会性や倫理的責任を与えることによる利点もあります。学年度中、これらの事柄についてコミュニティサークルで話し合い、毎日の学校生活で起こりうる出来事や状況について議論を行います。しかし、ほんとうの意味での社会性は家庭で培われるものです。ご家庭で保護者や家族の皆さんが互いに模範を示すことにより、学校で学んだことが更に効果的に定着します。もちろん多少の労力を伴いますが、お子さんと話し合い、これまでに困ったことや困難に感じたことを聞きくことでお子さんに心配や不安感を癒やし、適切なアドバイスを与えたり、解決方法を模索したり出来ると思います。ご家庭での話し合いはお子さんに自信を与え、学校での学習や友人関係に安定感をもたらします。

最後に、体を動かすことも重要です。日本の夏は非常に暑くなりますが、それでも体と心を動かす方法を見つけることは出来ると思います。もちろん、夏の運動ですぐに思い浮かぶのは水泳でしょう。水泳は暑さをしのぎつつ、筋肉を動かしエネルギーを燃焼させるのに有効な手段です。ストレッチやヨガ、夕方の軽いウォーキングも、夏休み中退屈せずに健康を保つのに良い方法でしょう。

夏休みは私たち自身や取り巻く世界を探求できる機会でもあります。今年は体も心も健康に過ごし、学びつつ「夏を楽しむましょう」!

**Clay M. Bradley**  
PYP Coordinator / Elementary School Vice Principal





## 「賢い選択をするため」の集会

賢く、思いやり深く、有益な選択をするためには、行動をする前に自身の決断を評価し、その結果を予測しなくてはなりません。子どもがまだ幼いうちは、子ども自身が行動の結果を予測することが難しいため、保護者がかわりに様々なことを決めているかもしれません。しかし、子どもが成長するにつれ、自分自身で決断を下していくようになります。これは子どもたちが成長し、生活していく上で不可欠のスキルであり、彼らが学習の過程でこのスキルを習得し、発展させていくことを見守ることが重要です。

4月4日の火曜日にG3とK2Aは「賢い選択をするため」の集会開きました。この集会ではボランティアのG3生が決断とその結果について発表をし、その後、K2A全員が、自分自身の決断によって良い結果、又は悪い結果がもたらされる、ということに気づくために Ms Cat と作った、日常生活の一コマを切り取ったお話を聞かせてくれました。また、G3のボランティアが“道で携帯を拾った時”と“(授業中に)トイレに行きたくなくなったら”という寸劇を披露してくれました。どちらのあらすじも Mr Sullivan とのコミュニティサークルの授業中にG3が自分たちで考えたもので、それを私が寸劇に仕上げました。これらの寸劇では、主要な登場人物がIB学習者像の要素を活かして最適な選択を行いました。そして最後にはそれぞれの要素を簡単に覚え、重要な決断を行う際に思い出せるようにG3全員で“The IB learner profile song”というラップソングを歌いました。子どもたちの歌に Mr Collins と Mr Wilson が生演奏を加えてくださいました。子どもたちは先生方の隠された才能を発見するのを喜ぶので、Mr Green と Ms Watanabeも聴衆をより惹きつけるためにラップに参加してくださいました。

集会で披露した歌はこちらのQRコードからアクセスして頂けます。どうぞお楽しみ下さい！



**Kana Furnival**  
Elementary School Student Care  
Coordinator





## K1とK2ニュース

これが今年度、最後のThe Cometの原稿となります。時間がとても早く流れているように感じられます。きつとどのクラスでも、先生方が子ども達に、次のクラスへ行く準備はきちんとできているかな？と子ども達に言っていることと思います。

KISTのK1とK2クラスが今年度から何年かぶりに2クラスになりました。合計で4クラスですが、教員は全員で7人が関わっています。教員一人あたりの子どもの数はとても少なくなっています。そのため、ひとりひとりの子ども達により多くの時間をかけて、その子の学びを援助することができています。それぞれのご家庭で、お子さんの成長を楽しめる一年であったでしょうか？

幼稚園の子ども達の成長が、その学年ごとにととても良くわかったイベントの一つが3月17日に行われた幼稚園の春のコンサートでした。プレスクールの2歳児クラスから幼稚園の5歳児クラスまでの演目を全てステージで見た時、一年の年の大きな違いに大変驚かされました。3歳児、4歳児の音楽担当のMs Karen、そして、幼稚園の職員、5歳児の音楽担当のMr Robの指導のもと、子ども達は本当によく頑張っておりました。

子ども達は自分たちの成長発達にあった目標には、サポートをしてもらいながら楽しんで学んでいけます。

どうか、夏休みの間、お子さんがクラスで学んだこと、(特にLetters and Soundsと算数のSkills)各ご家庭で復習してみてください。きつと準備万端で8月の新しいクラスを向かえられることと思います。

ただ、楽しく夏休みにしかできない、家族の行事も忘れないで下さいね。子ども達は意味のある、楽しい活動からたくさんのことを学びます。

最後になりましたが、子ども達の学びのためにいつもご協力頂き、本当にありがとうございます。

**Eri Ozawa**

Early Childhood Coordinator (K1, K2) / K1B Teacher





## K1家庭訪問



### K1保護者の皆さんが訪問を受け入れてくださいました

今年最後の探求単元、'Where we are in place and time'では家庭に焦点あてた学習を行いました。そのため、K1の保護者の方々が生徒たちの訪問を受け入れて下さいました。最終的にお尋ねしたのは以下4件でした：K1AがLiaとKodaiのお家、K1BがKaijiとKoaのお家。K1の保護者の皆さんはお仕事でお忙しい中でも非常に積極的に協力を申し出て下さいました。K1の教員と生徒たちを代表してPYPカリキュラムへの多大なご理解とご協力に感謝申し上げます。IB PYPでは特に学習における学校コミュニティ全体の貢献を強調しており、K1の生徒たちの成功は保護者の皆さんのサポートなしにはありえません。

この訪問での学習効果をさらに高めるために、K1の生徒たちは以下アンケートに答えました。

- ドアは何枚見えますか・ありますか？
- ベッドはいくつありますか？
- このお家には何人が住んでいますか？
- このお家にはどんなものがありますか？
- このお家に住んでいるのは誰ですか？絵を描いて下さい。



生徒たちは伺ったお宅の違いについて観察することが出来ました。生徒たちはエレベータのあるお家とないお家、階段のあるお家や、高いお家(高層建築)や低いお家(低層住宅)があることも発見しました。

生徒たちは色々なお家があることを実際に自分たちの目で確かめることが出来ました。このことで家というものや、家を構成する色々な部品や家具などについても簡単に理解することが出来ました。

K1AとK1Bにとってとても楽しい一年間でした!

全てのK1の保護者の皆様の校外学習へのご協力を今一度感謝申し上げます。皆様のご協力のお陰で素晴らしい学習体験をすることが出来ました!

Claire Yoneyama  
K1A Teacher





## K2Aでの早期リテラシー目標

先日「発達心理学」誌に掲載された早期リテラシーに関する興味深い記事を読みました。これによると、幼稚園で最も重視すべきリテラシースキルはアルファベットの知識や単語の暗記ではなく、子ども自身が書きたい言葉を「発明」する能力であるということです。

この「発明」されたスペルは、子どもたちがこれまで学んだ音声学 (phonetics) に基き、自ら文字を書こうとする第一歩です。この能力が発達するにつれ、子どもたちが「発明」したスペルはだんだんと実際のものに近づいていきます。この発達過程を通して子どもたちは単語をスペルする方法を振り返り・理解し、文字の発音と表記の関連についても深く理解出来るようになります。それだけではなく、子どもたちはただ受動的に暗記するのではなく、自分で決定し自ら学ぶ姿勢を身につけることが出来るのです。

この記事を読み、Jolly Phonicsのフルサイクルを終了した後、私のクラスでは子どもたちが学んだ音声学の知識や単語の知識を使って文章を書く取り組みをはじめました。探求単元 'Sharing the Planet' の一環として K2Aは生き物について学び、生き物たちが生きていくために必要なものについてリサーチをしています。様々な実際の生き物について学んだ後、幾人かの生徒が自分たちの空想上の生き物を作りたいという意思を示し、クラス全体で色々な部分を組み合わせた架空の動物を作ることに同意しました。生き物の生活圏や食べ物についてリサーチで得た知識を活かし、架空の動物たちが住む場所や食べ物についても決めることになりました。

架空の動物の姿を描くことに想像力を発揮した後で、子どもたちはいよいよ最初の文章に取り組みました。子どもたちはそれぞれ自分の作った動物の名前と住んでいる場所や食べ物について書き始めました。生徒たちは教師から励まされながら作業を進めましたが、スペルの指示や直しは一切受けず、自分で書く文の単語をすべて発音しながら考えて書かなければなりません。子どもたちが書いた文章は判読が難しいものもあつたのですが、子どもたちが自分の文章を読み上げてくれるのを聞いているうちに、子どもたちは自分が書いたものを読むことができること、そして彼らは自分たちが発音したとおりの文字を実際に書き表しているということが実感できました。私は子どもたちが成し遂げたことに感嘆しましたし、子どもたちも自分たちが自分たちの努力を誇らしく思っていたようで、何人かは更に2頭目、3頭目の動物を創り出していました。

この取り組みを通して、私は、子どもが書いたものを添削することも重要ではあるものの、子どもたちの音声学・発音への理解を深め、実際に文字や文章を書く際に十分な励ましや賞賛を提供することで、子どもたちが自信を持って読んだり、書いたりできるようになるということを強く感じました。

**Catherine Wells**  
K2A Teacher





## K2Bのサンドアート物語

今年3つ目の探求単元“How we express ourselves”で、K2の生徒たちは魔法に満ちた物語の世界について探求しました。生徒たちは様々なビデオを見たり、ジブリミュージアムに遠足に行ったりしながら様々な物語の形について学びました。K2Bの生徒たちはサンドアニメーションについて探求しました。世界には非常に有名なサンドアニメーション作家がいて、彼らが砂を用いて素晴らしい世界を創り出していくのを見るのは感動的なことでした。砂で創られた絵が徐々に変化して次の場面、次の物語を語り出すのです。サンドアートについて学ぶ中で、私達自身のサンドアート作品で物語を創りたいという思いが高まってきました。

Ms Ayaが粒子の細かいアマゾンの砂と、電子ボードを手配しました。子どもたちは家でサンドアートで表現するお話と、その登場人物や背景について考えました。子どもによっては自分の番になった時のための詳細な計画を立てていました。または、細かい設定なしに、電子ボードの上でどのような展開をしたいかを決めている子どもたちもいました。そして、クラス全員がサンドアートで自身を表現することが出来ました！皆で物語の素晴らしい形を体験することが出来ました。

**Aya Kurosaki**  
K2B Teacher





## K3での缶詰体験

### 道具は私たちの仕事や作業を容易にしてくれる

私たちの探求単元 'How the world works' では科学や技術の進歩が社会や環境に与える影響について学習しています。K3の生徒たちは世界中の様々な道具について探求し、それらがどのように仕事を簡単にしてきているかについて学びました。

#### 中心となる考え

道具は私たちの仕事や作業を容易にしてくれる

#### 探求の内容

- 様々な種類の道具が存在する(形式)
- 道具は異なる用途で人々の役に立っている(機能)
  - 道具は変化し続けている(変化)

生徒たちはマルハニチロ株式会社が提供して下さったワークショップに参加し、特別な機会を使って食品を保存する方法について学びました。マルハニチロからは英語を話すことの出来る社員の方がKISTに来校し、生徒たちに缶詰の歴史や、薬品を多用せず、缶詰の技術を用いることで安全に食品を保存することが出来る方法について説明して下さいました。

説明の後で、生徒たちは自分が作ったかわいいラベルを使って、オリジナルの缶詰を作りました。缶には自分の大切なもの(おもちゃ・写真・など)と事前に記入した将来の夢や希望に関するアンケートを入れました。缶詰を作る機会を操作するためにK3の保護者の方々がお手伝いにいらして下さり、生徒たちも缶詰に封をする作業を見ることができました。生徒たちは自分たちが作った缶製のタイムカプセルを5~10年後に開封するために持ち帰りました。

今回、マルハニチロ株式会社の方に来校頂けたことはとても幸運で、生徒たちはおかげでとても楽しい時を過ごすことができました！

**Anna Holdaway**  
K3B Teacher





## エレメンタリーELS

### “Summer slide”対策には夏休みの読書を

“Summer slide” – とは、生徒が学年度中積み上げたものが長い休みの間に失われてしまう現象のことです。皆さんも夏休みを前にこれを懸念されているのではないのでしょうか。でも、長いお休みの間に楽しんで読書をするので言語学習の後退を防ぐことが出来るのです。「楽しんで読む」こと。特に「楽しんで」というところが肝心で、子ども自身が読むものを選択することが重要です。読むのは本に限らず、漫画、雑誌、子ども新聞やウェブサイトでもよいのです。



更に、KISTの生徒たちは読書のために選択できる言語が2つ、またはそれ以上あります。どの言語で読んだにしても、“Summer slide”の防止に役立ちます。先号の*The Comet*に掲載されたELS記事でも触れていますが、お子さんが母語で読書することは英語学習の重要なサポートにもなっているのです。母語での読書を推奨する根拠となる研究にもし関心がお有りでしたら、以下を是非お読み下さい。

- <http://www.colorincolorado.org/article/why-reading-your-kids-your-home-language-will-help-them-become-better-readers>

何を読むのかを選択するのはお子さんですが、お子さんが読んだものをより深く理解できるよう、内容について話し合うことは保護者の方が出来る重要なサポートです。母語での話し合いは素晴らしい効果を生みます！お子さんがどの言語で読書をするにしても、その内容について母語で話し合うことで、リテラシースキルを向上させ、ひいては英語のリテラシーと語彙の学習をサポートすることが出来ます。お子さんとの読書についてのヒントは以下をご参照下さい。

- <http://www.readingrockets.org/article/reading-tips-parents-11-languages>
- <http://www.colorincolorado.org/article/parent-tips-summer-reading>

こちらで紹介するG4の生徒たちのように、皆さんのお子さんも夏休みに読みたい本が決まっているかもしれません…

**Rachel Parkinson**

Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor



Sam (G4B)、Prakariti (G4B)、Dhivya (G4B)、Donna (G4B)、Nao (G4A)、Haruka (G4A)、Brian (G4B)とAndrew (G4A)が現在読んでいる本を手にしつつ、夏に読みたい本と、何故、夏休みの読書計画をたてるべきなのかについて話してくれています。

## LEAPニュース



KISTの皆さん、こんにちは！

2016-17年度はLEAPにとっても素晴らしいものでした。今年度は学習促進のためにボードゲームを作ったり、劇を上演したり、テクノロジーを使用したりと多様な授業を提供しました！これらは生徒たちの学習に対する意欲を促進するためにも非常に良い方法です。

今年度から、LEAPでは保護者の方に情報を提供するためにニュースレターの発行を開始しました。LEAPインストラクターたちは、授業での生徒の様子や家庭で保護者の皆さんが更に生徒をサポートできるような資料を効果的に保護者の皆さんにお伝えできるよう熱心に取り組んでくれました。

私は生徒と教師全員の今年度の努力と貢献を非常に誇らしく思っています。皆さん、本当に有難うございました！

来年度は更に新たな取り組みを予定しています。LEAP Wallの設置です！エレメンタリーのホワイエのカレンダー脇にLEAP掲示を始めます。2017-18年度はLEAP掲示にご注目下さい！生徒たちの力作を掲示できるのを楽しみにしています！

LEAPが素晴らしい一年を送れたことに感謝致します。最高の一年でした！来年度に又お会い出来ることを楽しみにしています

**Amber Guarente**  
LEAP Coordinator



I liked the word jumble because I love to use cards with letters to make words.

I enjoyed LEAP because it was fun and exciting. My favourite thing was writing magic potions because It was creative.

I like doing writing repair so I [can] improve my writing.

I improved listening and writing a lot.

I enjoyed using the past tense and making crazy sentences.

I enjoyed playing LEAP games because we could be risk-takers and learn together.

I learned how to use their, they're, and there. I improved the most with using speech marks.





## KIPSニュース

### P0-P1クラスレポート

KIPSでは0歳児、1歳児は同じ保育室で一日を過ごしています。そして、保育は子ども達の母語を考慮し、英語と日本語両方で行っています。母語の発達と共に、少しずつ話せるようになってきた子ども達は、日本語に加え、英語でも、'Yes'、'No'、'Open, please'、'Help, please'など簡単な意思表示が出来るようになってきました。Morning circleでは名前を呼ばれると手を上げて返事をしたり、歌を身体を動かしながら歌ったり、絵本を見て絵本の中の動物や虫・食べ物などの名前を先生の真似をして言ってみたりと、楽しみながら英語に触れて過ごしています。入園当初は、食事の時間も介助が必要でしたが、今では自分でスプーンやフォークを持ちながら一人で食べています。また、オムツを替えるのを嫌がっていた子も、自分からおしっこ・うんちが出ていることを知らせに来てくれるようにもなりました。一人ひとりがめまぐるしいスピードで成長するこの時期、それぞれの子ども達の成長・発達に合わせたを保育することの大切さを実感しています。

**Yoshimi Machida**  
P0-P1 Teacher



### P2クラスレポート

2歳児クラスの子も達は、KISTと同じように、日本語の時間以外は基本的に英語で一日を過ごしています。入園当初泣いて登園していた子どもも、入園から半年以上たった今では、“Good morning!!”と元気に挨拶しながら毎朝登園してくれるようになりました。「○○ちゃんと遊びたい」と仲良しの友だちが出来たり、「一緒に手つなぐのは○○くんだよ」と散歩のパートナーを意識したりと、友だちとの関係も深まってきました。また、“Can I have it?”、“Ok!”、“Wait please!”など、言葉でやりとりしながら遊ぶ姿も増えてきました。このような毎日を過ごしながら、子どもたちがKIPSを自分の居場所だと意識してくれていると感じる毎日です。新年度からはK1としてKISTの大きなキャンパスで元気に楽しく毎日を過ごしてほしいと願っています。また、この一年弱で生活面、言語面共に大きな成長をした子どもたちに来年からも期待したいと思います。

**Mai Inagaki**  
P2 Teacher



### KIPSオフィスより

KIPSは、昨年10月に森下駅近くに企業主導型保育施設としてリニューアルオープンしました。KIST/KIPSを通じて初めてとなる0-2歳児向けの施設として、安全安心をモットーに英語での保育を提供しています。

先日、内閣府による抜打ち午睡チェック監査がありましたが、問題なく終了致しました。KIPSでは、昨今、乳児保育施設で懸念されているSIDS(乳児突然死症候群)対策として、0、1才児クラスでは5分毎に、2才児クラスでは15分毎に呼吸や顔色そして寝ている体制などを確認しています。

安全面からの施設設備の定期チェック、毎月の防災自主検査並びに訓練。消毒、清掃、子どもやスタッフの手洗い等衛生管理を徹底しウィルス等の蔓延防止。『ヒヤリ・ハット報告書』等を導入し、事故防止に努めるなど、子どもたちの保育環境の向上を徹底して行っています。また看護師が毎日3回、子ども達の視診(登園後、お散歩から帰ってきた時、午睡明け)を行い、常に子どもの状態の把握に努めています。

また、KISTのStaff数名が、必要に応じてKIPSのサポートを行うため、も『子育て支援員』を取得するなど、協力体制は万全です。それに加えて、内閣府主催の研修などに積極的に参加し、子どもたちを安心して預けて頂けるよう、日々保育の質に向上努めています。

**Yukiko Murai Jones**  
Office Coordinator



## MYPニュース

### 生徒たちが生徒主導面談の振り返りを行いました

毎年3月にKIST生徒たちは自身の成長と得意分野などを家族に報告するための面談を主導します。毎年この生徒主導面談(SLC)で、生徒たちはこれまで取り組んできた課題を見直し、成し遂げた物を振り返る機会を得ます。

SLCの準備は生徒たちが自身の成果物をポートフォリオにまとめ、振り返りを行うことから始まります。今年から、生徒たちが自身のKISTでの時間をより広い視野から振り返ることが出来るよう、ポートフォリオのまとめ方に若干の変更がありました。

学習における成功・成績だけを重視するのではなく、ポートフォリオには生徒自身が意義深かったと判断した生活スキルやMYPの必須要素、学習方法、課外活動なども加えられました。

これらの振り返りはIBのApproaches to Learning Skills (ATL)(学習スキルへのアプローチ)の枠組みを用いたものです。ATLは全ての生徒の成長をはかる効果的な手段です。

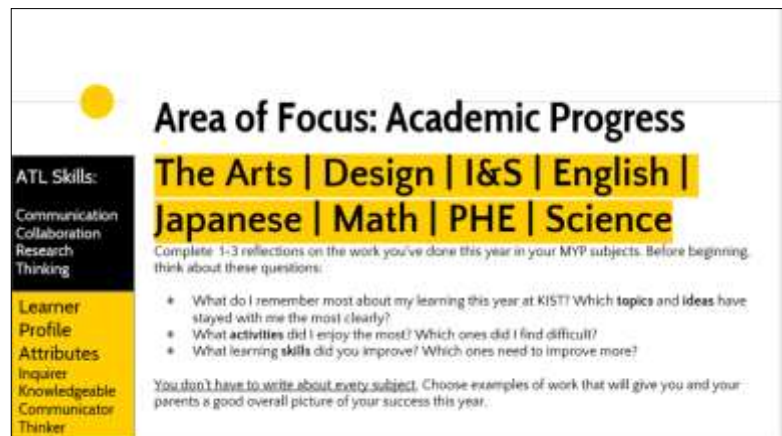
MYPポートフォリオと、生徒主導面談はどちらも生徒やその保護者にKISTでの生活と学習をはっきりと示すことが出来る良い機会なのだと感じました。



ポートフォリオに入れられた文書は振り返りの重要性を強調します。



生徒たちは様々な体験について振り返りました。



学習の成果を振り返る。



IB学習者像とその要素について考える。



## Waterloo数学コンテスト



3月1日に、G9-G11から9名の生徒がWaterloo大学のPascal、Cayley、そして Fermat 数学コンテストにKIST史上初めて参加しました。このコンテストでは各学年の数学を得意とする生徒たちが60分間の非常に難易度の高い選択式問題に取り組みました。更に4月7日にはG12から2人の生徒がUniversity of WaterlooのEuclid コンテストに参加しました。このコンテストでは複雑で何段階かのステップを踏んで解く必要のある記述式の難問に150分間取り組みます。カナダの公立校と、世界中の私立校に在籍する数百人の生徒たちがこのコンテストに参加しました。

コンテストに参加した11名の内、9名が全参加者の上位25%の成績を達成しました。今回が初参加のKISTがこのような好成績を残すことが出来たというのは快挙です。素晴らしい成績を残した以下の生徒たちを讃えたいと思います。



Ji Hye (G9A)



Natasha (G10A)



Chae Hyun (G10A)



Xiang Yu (G10A)



Shimpei (G10A)



Tian Wei (G10B)



Gopal (G10B)



Rinchin (G11A)



Amartya (G12A)

これからもこのコンテストへの参加を継続し、さらなる成果を上げたいと願っています！

### Wilson Fong

Secondary Mathematics Teacher



皆さんも御存知かと思いますが、Waterloo 数学コンテストには、世界中の学生が自身の柔軟な考え方を試すために参加しています。学校のカリキュラムで提供される数学とは一味違ったより多角的な問題に取り組むことが出来るこのコンテストは力を抜いて数学を楽しむことの出来る機会です。もし、興味を持った人がいたら、是非参加することを勧めます-楽しんでみて損はないですよ！

—Ji Hye (G9A)



## G11 DP 美術校外学習

### 草間彌生: わが永遠の魂

私たちは4月7日に、DP美術コースでの学習の一環として草間彌生: わが永遠の魂展を訪れました。展覧会では絵画だけでなく、鏡や照明なども使った幅広い作品を観ることが出来ました。

DP美術を履修している多くの生徒は自分たちのアイデンティティに関わる概念をテーマに選んでいおり、これこそ草間彌生が追い求めてきたテーマでもありました。この展覧会は私たちに自身の作品と向き合う新たな視点を与えてくれました。

草間彌生が作品に使用した過剰なまでの幾何学模様と鮮やかな色彩は私たちの一部に頭痛をもたらしたほどでしたが、これもまた芸術作品を鑑賞する代償なのではないでしょうか？

個人的には、彼女の作品の鮮やかな色彩と単純な図形の多様を一種の催眠術のように感じました。彼女の絵画でとても楽しめたのは、離れたところから見ている時は意味をなさなかったものが、鑑賞者が自分自身で作品のテーマを「観ようとする意志を示した」途端に意味を成すことです。これは彼女の作品が抽象的で主観的であるため、鑑賞者のその時の感情や考え方によって見えるものが大きく異なるからです。鑑賞者自身に作品を解釈する自由度を与えている点や、会場に流れる解説の声がとても興味深かったです。

以下は私のクラスメート何人かの意見です。

#### Rachel (G11A)

「絵画のテーマを直接的に示さず、一見適当で不気味に感じられるところが草間彌生の作品の独特で面白いところだと思う。でも、作品タイトルを見ると、少しずつ使用されている色彩や図形によって意図されていることが理解できるようになってくる。また、鮮やかな色彩や単純な図形を用いているので、作品から目を離せなかった。」 Moe Min (G11A)

「とてもユニークな展示会でした。特に光の部屋(light room)がお気に入りでした。」 Sarah (G11B)

「作品を少し怖く感じました... 作品がどれもあまりに鮮やかで、圧倒されてしまいました。同時に、草間彌生の精神状態には非常に興味を惹き付けられました。」 Su Bin (G11A)





## G12 DP美術展示会

3月24日の金曜日に行われたDP美術展示会は、G12のDP美術履修者にとって2年間の学習の集大成となる重要な一日となりました。生徒たちは美術に関する様々なメディアや手法、個人的な関心を突き詰めた作品を製作しました。この展示会では生徒たちの作品を学校全体に開放し、楽しんで頂く事が出来ました。エレメンタリーとセカンダリーの生徒たちに作品を鑑賞してもらい、作品についての意見や質問をもらうことで、製作者自身も作品について振り返ることが出来たと思います。

KIST生と教職員を代表して、DP美術を履修していたG12の生徒たちの努力を讃えたいと思います：本当によく頑張りました。そして皆さんのこれからの幸せを祈ります。

### Luke Jones

MYP/DP Visual Arts Teacher / KPASS Fine Arts Coordinator



**Marcus (G12B)**  
*Digital photography*



**Marcus (G12B)**  
*LEDs and canvas*



**Ima (G12B)**  
*Clay and wire sculpture*



**Ima (G12B)**  
*Mixed media*



**Olivia (G12A)**  
*Mixed media stitching*



**Isabella (G12A)**  
*Painted wooden kokeshi*



**Isabella (G12A)**  
*Mixed media*



**Sanami (G12B)**  
*Fashion accessory and photography*

## KISTでのアカデミックライティング

今期のアカデミックライティング(小論文)の目標は、生徒がKISTの高い学習基準に到達出来るだけのライティングスキルを身につけられるよう、フィードバックや適切な助言を提供することでした。クラスでは小論文作成スキルの向上を目的として、より学術的でレベルの高い語彙を身につけるために様々な異なる文体の文献を分析してきました。ELSインストラクター一同はアカデミックライティングを通して、生徒たちが各学年での学習内容にも熱心に取り組む意欲を維持できるようサポートしていきたいと願っています。

私は先日G6からG10の生徒たちとアカデミックライティングの効果について話しあいました。以下は生徒たちのコメントです。



“インストラクターと直接話し合っ向上するのに必要なフィードバックをもらえるのは素晴らしいと思う。”

“0時限のクラスは朝早いけれど、DPの準備ができるので良いと思う。”

“Summativeで8を貰えるようになりました！”

“語彙が増え、朝から集中できるようになった。”

“診断テストに必要なスキルや練習の機会が得られる。”

“課題をギリギリまで後回しにせず。期限までにきちんと終わらせるようになった。”

“ここで学んだことは、まさにsummative必要なものでした。”

以下は各学年での学習に加え、今期の語彙リストの学習を完了させたアカデミックライティング在籍生徒です。皆さん、おめでとうございます。



Yuki (G6B)



Tatsunori (G7A)



Aidan (G8A)



Emily (G9A)



Tian Wei (G10B)

今期のアカデミックライティングも終わりに近づいてきました。この場をお借りして生徒たちを常にサポートしているELSチームに感謝を捧げます。また、今期、熱心に追加学習に参加した生徒たちとその保護者の皆さんにも感謝します。

皆さんが安全で安息に満ちた夏休みを過ごされますことを願っています

**Donna Linnett**  
ELS Coordinator (Secondary)





## Middle School Brain Bowl

3月に、13人の生徒がMiddle School Brain Bowl 大会に参加するため、清澄白河から練馬まで電車で向かいました。生徒たちは科学、言語と文学、歴史、地理、数学、時事問題など様々な分野での知識を競う活動・競技に参加しました。



競技が行われるホールに入った途端に会場の興奮と歓迎の気配に包まれました。都内の多くのインターナショナルスクールから参加した生徒たちは、全て別の学校出身者で構成された4人一組のチームに分けられました。生徒も、同行した教師たちも即座に自己紹介をしあい、初めてであったメンバーたちと積極的に交流を深め始め、会場は和やかな雰囲気になりました。自己紹介とチーム名決定の後にいよいよ競技が始まりました！生徒たちは連想ゲームや数読、絵解き、チームの早押しなど、多くの競技に参加しました！

5位になったチームの一員だった **Yungandhar** (G8A) と、優勝チームメンバーの **Hugo** (G7B)、おめでとう！KISTの他の参加者たちも、学校の代表として素晴らしい活躍をしてくれました。

ある生徒は、「お互いにコミュニケーションをして、問題に答えるために協力し合えたのが良い経験だった」



とコメントしてくれました。また、この日一日友人たちとも「良いライバルとして向き合えた」のが良かったと言っていた生徒もいました。このことで、楽しいながらも緊張感を持った競技となったようです。また、別の生徒は「初対面の人達と協力することで知識だけでなく、協調性が試される」と述べた後で、「来年は自分のスキルをさらに高めることが出来るこの競技に参加することを皆に勧めます」とコメントしてくれました。



Middle School Brain Bowl は来年も同じ時期に開催され、Semester 1のクラブとして提供されます。楽しく、思考力を試される経験であることをお約束します。Jeopardy、board trivia games やその他もっと楽しい活動が提供されます。メンバーは友好的でありながら熱気溢れる環境で互いに競い合う(賞品もあります！)だけでなく、大会で実際に使用される問題を作成する機会も与えられます。Brain Bowlで皆さんにお会い出来るのを楽しみにしています！

**Louise Green**  
MYP Mathematics Teacher /  
Brain Bowl Organiser 2016-17





- ✓ MR. COLLINS
- ✓ MRS. DURAN
- ✓ パフォーマーの皆さん
- ✓ KIST スタッフ

今年も素晴らしい EYC でした！

皆さんは最高です

## MYPパーソナルプロジェクト・エキシビション

### G10がパーソナルプロジェクト・エキシビションで大活躍

2017年の MYP パーソナルプロジェクト・エキシビションが3月3日(金曜日)に体育館で開催されました。

今年の始めからG10が取り組んできたこのプロジェクトはMYPの集大成となるものです。このエキシビションはこれまで生徒たちがMYPで培ってきた知識やスキルを発揮する重要な機会です。

このプロジェクトは生徒が個人で取り組んできたもので、個々の教科の学習に加え、最終的な成果物や何らかの結果、プロジェクトのこれまでの過程をまとめたもの、そしてパーソナルプロジェクトで達成したことを発表するためのレポートを提出します。

エキシビションはエレメンタリーやセカンダリー生、G10の保護者の皆さんも訪問された、とても楽しい一日となりました。エキシビションの後に、MYPパーソナルプロジェクトのスーパーバイザーが生徒の作品・成果物の評価を行いました。

取り扱われたテーマの多様性、成果物の質の高さ、テーマに対する生徒たちの高い関心などからも、2017年度のG10は自らが成したことを誇りに思っていると思います。



エキシビション当日のG10生



Varsha (G10B)のクレイアートを鑑賞する  
エレメンタリー生たち



Ushani (G9A)がRyota (G10A)とパースなるプロジェクト  
への最良の取り組み方について話している所



Chae Hyun (G10A)が集めた、自身の絶滅危惧種  
についての本のフィードバック



パーソナルプロジェクトスーパーバイザーが生徒の  
作品を見直し・評価している所



## G9キャンプの振り返り

### G9がキャンプで自転車、ボート、ハイキングを楽しみました

ゴールデンウィーク休暇が開けてすぐ、G9の生徒たちは山梨県での合宿に参加しました。山中湖のYMCAキャンプ場で、生徒たちは富士山の麓の美しい自然に抱かれて、様々なレクリエーション活動を楽しみました。また、G9の教師陣が主導した生徒同士の活動にも参加しました。

この合宿の学習的目標としては、生徒たちにG10のパーソナルプロジェクトの準備のための情報を提供することでした。生徒たちはこのプロジェクトにどうやって取り組みたいかについて話し合う機会を持つことが出来ました。また、以前の在校生・上級生から手紙という形でのアドバイスを受けました。KIST教員も、じっくりと時間をかけて決定した意義深いテーマについてどのように取り組んだらいいのかについてのアドバイスを提供しました。

生徒たちは学校に戻ってから合宿の振り返りを行うよう求められました。Remi (G9B) は、「レクリエーション活動の中ではボートが一番気に入りました。湖を漕いでいる間最もチームワークとコミュニケーションが求められたからです。また、これほど近くで富士山を見たことがなかったのでサイクリング中の景色も素晴らしいと感じました」と書いていました。Conan (G9B) も合宿を楽しんだようで、以下のようにコメントしています：「3つのレクリエーション活動に参加したことで楽しみながらクラスが結束することが出来ました」

合宿では夕方にチームビルディングのための活動をし、その後でキャンプファイヤーを行いました。Kushali (G9B) は夕方の活動を大いに楽しんだようです、「チームビルディングとキャンプファイヤーが今回の合宿で一番楽しかったです。一緒に歌を歌ったり、怪談を聴いたり、ただ炎を見つめているのも楽しかったです」とコメントしています。Ami (G9B) もこれに同意し、「活動はどちらも楽しかったけれど、特にチームビルディングが良かったです。普段あまり交流のない人たちと関わることが出来ました。キャンプファイヤーは私たちみんなにとって穏やかで素敵な時間を提供してくれました」と語っています。Ami はパーソナルプロジェクトについて考える機会があったことも評価しています、「このセッションは来年度のようなことがあるか心の準備をする上でも良かったです。先生方の幾つかの提案は、テーマの選択には色々な可能性があるのだと私に気づかせてくれました」

合宿後にKISTに戻った生徒たちからは、クラスメートと豊かな経験を積んできたことがうかがえました。来年のG9も合宿に参加すべきかどうか聞いた所、Karen (G9A) は熱心に同意しました、「絶対に参加すべきです。合宿中、特にバスでの移動中や、屋外活動中、グループの寝室などで友人たちと会話し、より強い関係を築く機会がたくさんあります。私はクラスメートと新たな関係を築き、この合宿の全ての瞬間を楽しみました」とコメントしてくれました。



石割山での長いハイキングの終わりとともに合宿が終了しました。



合宿は見事な富士山を背景にスタートしました。



山中湖周遊道路をサイクリング中の小休止 食事をともしながら一体感を構築

5月の8日と9日に富士山の近くにあるYMCA施設で合宿を行いました。到着すると、一緒に食事を摂ったり、同じ部屋を使うことになるグループが発表されました。その後、皆で昼食を摂りました。グループの一人一人が果たすべき役割を持っていたので、これまで交流したことのない人たちと協力し合いながら食事をすることが出来ました。昼食後に学年が2つにわけられ、それぞれ別の活動、活動1と活動2、を行いました。活動1は富士山の近くにある湖でのカヌー体験で、活動2は施設周辺のサイクリングでした。皆が悪戦苦闘したり、成功したりするのを見て楽しい時間を過ごすことが出来ました。これら楽しい2つの活動の後は30分間の自由時間で、夕食の時間までシャワーで活動の汗を流したり、部屋でのんびり休んだりしました。夕食後はキャンプファイヤーの前で学年ごとに歌を歌ったりしました。その後、両クラスがそれぞれ怪談話を披露しました。次の日はパーソナルプロジェクトについての1時間のセッションで始まり、その後、山道をハイキングしました。ルートの始まりは400段の石段で、とても疲れましたが、なぜかとても楽しかったです。ハイキングが終わると、残念ながら合宿も終りとなりました。

全体的に今回の合宿はとても楽しいものでした。これまであまり話したことのない人たちと交流したり、パーソナルプロジェクトについての知識を得たりすることができました。もっとも重要なのは私たち全員がお互いの失敗を笑い飛ばしたり、成功を讃えたりしながら楽しい時間を過ごすことが出来たということです。もうすぐG9になる皆さんも盛りだくさんの2日間を是非楽しみにしていて下さい。皆さんにとっても忘れられない体験になるでしょう。

—Conan (G9B)





## Math Field Day

4月に、KIST生たちは神奈川県Zama High Schoolで開催されたMath Field Dayに参加しました。彼らは個人、又はグループで多くの課題に取り組みました。この日一日で生徒たちは様々な数学的スキルを探求し、身につけただけでなく、東京の各地から参加していた他校生とも知り合いになることが出来ました。

生徒の一人は「とても楽しい経験でした。数学的スキルだけでなく操作・手技能力も問われるカードの組み立て課題が特に面白かったです」と答え、もう一人は「自身の数学スキルを実証したい生徒にMath Field Dayはまたとない機会です」とコメントしています。そして別の生徒は特に、「チーム競技では数学問題を解くための視点が大きく変わったので」ととても楽しかったと述べていました。



**Louise Green**  
MYP Mathematics Teacher



おめでとう!!!!



**Tomoko (G6B) G6 部門優勝**  
**Chan (G11B) G11 部門2位**  
**Chae Min (G11A) G11 部門3位**  
**Mehak (G7A) 中学部門優勝チームメンバー**  
**Chan (G11B) 高校部門優勝チームメンバー**



Chan (G11B), Tomoko (G6B)と  
Chae Min (G11A)

今年のField Dayの準備のために生徒たちはこれまで多くの過去問に取り組んできました。来年は、energizer rounds、jeopardy roundsを始め、クイズ形式の問題への準備も過去問を使って行います。参加生徒は互いに友好的でありながら熱い戦い(賞品もあります!)に参加する他、自分たちが大会で使用される問題を提供する機会にも恵まれます。

来年も皆さんと参加できるのを楽しみにしています!

## G7キッズニアで校外学習

5月12日の金曜日に7年生全員で校外学習のために豊洲のキッズニアに行きました。これはIndividuals and Societies(個人と社会)と、Language and Literature(言語と文学)のクラス双方の教科横断学習の一環として行ったものです。この校外学習の目的は成功しているテーマパークを実際に観察することでした。この訪問中、生徒たちはピザ作りや、警察官体験、ジャーナリスト体験、漫画家体験、さらには鉛筆作りなどの体験を通してキッズニアが国内外の来場者を満足させるために用いているマーケティングや広報テクニックを観察しました。この訪問は教育的でありながらもとても楽しいものでした!今、生徒たちは自身のビジネスプランと、教育的なテーマパークの広報キャンペーン案を忙しく作成中です。今年度の最終週には、7Aと7Bの生徒たちが未来の投資家たちに自身のプランを発表します。どのグループが最も多くの投資を集めることが出来るでしょう!

**Donna Linnett**  
Secondary English Teacher





## セカンダリーSRC



### 大学フェア

セカンダリーSRCはKIST春の大学フェアで、会場の設営や大学の担当者のご案内などのお手伝いをしました。フェアの間、大学の担当者の方とお話し、大学の特徴や提供コースなどについて理解を深めることが出来ました。これはSRCメンバーにとって貴重な機会となりました。来年もまた、大学の担当者の皆さんにお会い出来ることを楽しみにしています。

*Let your voice be heard*

### 女子フットサルチームのジャージ(ユニフォーム)

KIST SRCは女子フットサルチームのユニフォーム購入費用として45,600円を寄付しました。ユニフォームは購入され、既にフットサルチームが着用しています。ユニフォーム購入前、女子フットサルチームは サイズが合わなかったり、くたびれていたりするバレーボールのユニフォームを着用していました。新しいユニフォームが出来たことで、愛校心やチームとしての一体感がさらに増すことでしょう。SRCはKISTの運動部を強く応援し、トーナメントでの好成績を願っています。GO COMETS GO!



### 生徒基金の申請



SRCは先日、2017年6月2日に行われるG12の卒業式の飲食代金補助のための「生徒基金の申請」を承認しました。卒業委員会に10,410円を提供することで、SRCは式典後のパーティの費用全てをカバーすることになります。このことにより、パーティが参加者全てにとって楽しいものとなることを願っています。KIST生を代表し、SRCは卒業生の皆さんの新たな旅路における成功を祈っています。

### Edcamp Tokyo

SRCは今年のEdcamp in Tokyo にボランティアとして参加しました。Edcamp は教師やその他教育関係者が個人的に様々な問題について議論し、情報共有するための会です。今回KISTは初めてEdcamp を主催しました。会場設営や案内の後、私達にも自身の体験や学校生活について他校の教職員と共有する機会を与えていただきました。ここで自由に生活についての意見を述べることは新鮮な経験でした。



### 芸術委員会バッジ

先日、芸術委員会は自身のバッジをデザインし、学校から制作の承認を受けました。芸術委員会のメンバーを探される際は、バッジを目印にしてください！

### お手洗いの棚

お手洗いに(文具等を置くための)棚がほしいという依頼が多数寄せられているため、SRCでは早急にこの依頼に応えるようにします: 皆さん、乞うご期待です!!

### Secondary SRC

## クラブ活動のハイライト



### 日本の文化クラブ(エレメンタリー)

せっかく日本にいるのですから、色々な日本の文化を知り楽しんでもらいたいと思っています。

折り紙を折ったり、有名なアニメを見たり、日本の行事を知りました。

生徒たちは、日本の食べ物を作ることに興味を示し、節分の時には、皆で恵方巻きを作りました。

のり巻きは、巻くのがちょっと難しいようでしたが、どんな恵方巻きでも自分が作ったのものは、1番美味しい！

皆、北北西を向いて黙ってお願い事をしながら食べました。

初めて書道の経験もしました。慣れない筆を楽しそうに動かしていました。漢字が好きになってくれたかな。

このような経験を通して日本の文化にもともと興味を持って日本を好きになって欲しいと願っています。

**Miyako Takayama / Yoshiko Torikai**  
Club Supervisors



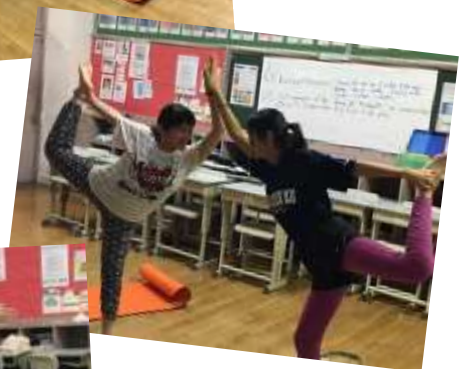
### ヨガクラブ(セカンダリー)

木のポーズ、瞑想をして、「プレッツェル」のように体を曲げる。大抵の人がヨガと聞いて思い浮かべるのはこのようなものではないでしょうか！でも、今期ヨガクラブに参加したセカンダリー生はヨガの目標はより柔軟に、健康になることだと教えてくれるでしょう。

毎週のクラブでは身体的なものではなく、精神的な健康に焦点をおいた活動を行いました。クラブで重視したことは: ストレスの軽減、集中力、忍耐力、信頼、そして受容性でした。簡単なものからかなり複雑なものまで様々なポーズを練習することで自身の体や精神に注意を払うようになります。例えば、三角倒立ができるようになるためには自信と信頼がなければなりませんし、ヴィンヤサの動きを繰り返すためには集中力と忍耐力が必要です。そして「猿王のポーズ」/ハヌマーナ・アーサナと呼ばれる前後開脚を試みたあとで優雅に立ち上がれず、転がってしまう自分を楽しんで笑えることも大切です！

学期の終わりまでに上級のポーズが取れるようにはならなかったかもしれませんが、生徒たちは新しいポーズに積極的に取り組み、思った通りに行かなくても諦めないということを学んだと思います。そしてこれこそが今回のクラブの目標でした。来年もクラブを実施することを楽しみにしています。

**Jade Jagroo**  
Club Supervisor





## 図書室ニュース



### 夏休み中のお勧め教材

図書室では、今学年度最後の日である6月14日に生徒が夏休み中に読む本を借りに来ることを歓迎します。でも、借りた本をすべて読んでしまったらどうしたらいいのでしょうか？以下は、夏休み中に脳を活性化させ続けるために利用できるお勧めオンライン教材です。

#### エレメンタリー

#MetKids: 「#MetKids は子どものために、子どもと大人、そして子ども自身によって開発されたデジタルコンテンツです！芸術作品についての知識を得たり、タイムマシンに乗ってみたり、舞台裏のビデオをみたり、自分独自の創造性溢れるプロジェクトのアイデアを得たりすることが出来ます。」

<http://www.metmuseum.org/art/online-features/metkids/>

Storyline Online: 「読み聞かせは子ども自身の読書への興味や関心だけでなく、子どもたちのリーディング、ライティング、そしてコミュニケーション能力、論理的思考力、集中力や全体的な学力を向上させる効果があると繰り返し証明されています。...Storyline Onlineは有名俳優が出演する創造性溢れるビデオ映像を提供しています。...創造性溢れる画像・映像とともに読み聞かせをすることで子どもたちに読書の楽しさを伝えることが出来ます。」

<http://www.storylineonline.net/about/>

International Digital Children's Library: 「International Children's Digital Library Foundation (ICDL Foundation)のミッションは児童文学を無料でオンライン提供することによって、世界中の子どもたちが多様な文化や言語、思想に対し寛容で尊敬の念を持って接することの出来るグローバル社会の有益なメンバーとなれるように支援することです。」

<http://en.childrenslibrary.org/>

#### セカンダリー

Audiobook Sync: 「SYNCは13歳以上のティーンエイジャーのための夏季無料オーディオブックプログラムです。...SYNCでは毎週設けられるテーマに沿って、週に2冊、人気のオーディオブックを無料で提供しています。」

<http://www.audiobooksync.com/>

注: 日本ではダウンロードできないタイトルがある可能性があります。

Camp NaNoWriMo: 「Camp NaNoWriMo は最大限の柔軟性と創造性を活かすために設けられた架空作家の“隠れ家”です。この“キャンプ”は4月と7月に実施され、30字から1,000,000字の投稿を受け付けます。参加者は小説の下書き、完成稿、詩、戯曲、短編とどのようなジャンルの作品でも投稿できます。」

<https://campnanowrimo.org/>

StoryCorps: 「StoryCorpsのミッションは人間間の絆を築き、正義と共感の気持ちに溢れた世界を創造するために人間愛や人間性に関する物語を保存し、共有することです。

私達は互いの人格を尊重し、人間愛を思い起こさせることで人々の絆を強め、人の意見に耳を傾けることの価値を思い起

こさせることで教え、すべての人の話は聞くに値するものであるという私たちの信念を広めたいと考えています。」

<https://storycorps.org/>

まだ良い資料や本をお探しいろいか？KISTのMoodle上の図書ページは夏休み中も閲覧可能です。司書がお休み中も、参考資料をリサーチリンクから閲覧できますよ！



Miku (G7A), Armaan (G7B) と、Ajay (G7B) がMoodleでオンライン資料を閲覧中

### LMC ブックマーク



Gini (G6B), Saanvi (G6B) と、Nehal (G6A) がブックマーク(書評)サンプルを手に入れています。

来年度から在校生による書評制度を導入します。図書チームはこの取組への皆さんの協力をかかげたいです。これは自分のお気に入りの本を楽しく、簡単に友だちに紹介できる良い方法です。また、一読者としても、先生や友人たちが勧める本から新たなお気に入りを見つけるチャンスです。

参加するには、あなたのお気に入りの本を何故皆も読むべきなのかを紹介する一文を提供するだけです。あなたが何故その本を楽しんだのか、または、どのように学習に役立つのかを教えてください。いくつかのサンプル画像を載せていますので、参考にしてください。夏休み前にぜひ、LMCに展示されているサンプルを見に来てくださいね。

書評を投稿するには:

- Moodle > LMC > Booksからカラーの書式をダウンロード
- 一文書評を書く (LMCの蔵書についての書評でなければなりません)
- ファイル名を書名にして保存
- 保存したワードファイルをlibrary@kist.ed.jpにメールで送付

背景の色やデザインを変えたい場合は自由にどうぞ！創造性を思い切り発揮して下さい！その場合、モノクロの書式をダウンロードして下さい。夏の間の読書を楽しんで、是非皆とも、その楽しさや知識を共有して下さい。

皆さんの「お気に入り」についての投稿を楽しみにしています！

### 図書チーム新メンバー



KISTの新しい実験助手兼、図書アシスタントのErika Karasuyamaです。私はフィリピン系の日本人で、3歳からフィリピンのミンダナオ島で暮らして、最近日本に帰国しました。私は読書と新しいことを学んだり、新しい場所を探検したりすることが好きです。動物

も大好きで、いつかフィリピンに殺処分ゼロのシェルターを設立するのが夢です。図書室でお勧めの本について質問があるときや、実験室でサポートが必要な時はいつでも声をかけてくださいね！

KIST Library Team

## ハビタット・フォー・ヒューマニティー(HFH)最新情報

この一年間、KIST HFH 2017チームは6月にベトナムで家を建築するための様々な資金調達活動に熱心に取り組んできました。以下は今年度に行った活動の一例です。



### Café Eikaiwaでの模擬MYP英語レッスン

4月22日の土曜日、2017年度KIST HFHのメンバー数人が茅場

町の英会話教室でMYP English Language and Literatureの模擬授業を行いました。私たちは昨年、G10で行った総括的評価課題を数時間で完了するようなものに作り変えました。この活動により、ハビタットメンバーのベトナムでの活動資金を調達できただけでなく、「生徒」(大人の方々)も授業を楽しんでくださったようでした！最初にこのお話を聞いた時は大人の人達が私たちの話すMYP教育と日本の学校システムの違いに興味を示してくださいるか不安に思っていました。けれど、実際には皆さん非常に熱心に話を聞いてくださったことは嬉しい驚きでした。私たちの多くにとって、英会話のレッスンというのは初めての経験だったので、生徒の皆さんがどれだけの英語力をお持ちなのか全くわかりませんでした。ですので、この活動を行ったことで、よりよく話している内容を理解していただくために柔軟な考えを持って、簡単な語彙を使うことの大切さなどを学びました。これはチームにとって、とても楽しく、貴重な機会でした。またこのような機会をいただけることを楽しみにしています。

—Rachel (G11A)



### HFH プロロジス様での英語プレゼンテーション

4月19日(水曜日)にHFHチームは物流施設会社、プロロジス様で英語のプレゼンテーションを行う機会をいただきました。HFHのメンバー: Aska, Amina, RachelとKevinはこの発表のための準備を熱心に行ってきました。目的はHFHチームが数日間かけて海外の恵まれない家族のために家を建てるための渡航滞在費の確保です。より完璧なプレゼンテーションを目指し、チームは数週間かけてプレゼンテーションを準備しました。もちろん、プロロジスでのプレゼンテーション準備の他に学校の課題通常通りこなさなければなりません。これはかなり大変なことでしたが、私達は出来る限りのプレゼンテーションをプロロジスの社員の方に対して行うことが出来たと思います。

プレゼンテーションには極僅かな社員の方が参加してくださいました。最初はチームメンバーがパンフレットを社員の方々にお渡しするなどしてスムーズに始めることが出来ました。そして肝心のプレゼンテーションです。発表の間中チームは常に聴衆を意識し、KIST HFHに寄付をしたくなる正当な理由を提供できるよう考えました。発表の後で、社員の方からHFHについてはチームメンバー個人への質問がありました。いただいた質問にもできるだけ正しく、真摯にお答えしたつもりです。プロロジスを後にする時は、自分たちが完璧なプレゼンテーションを行うことが出来たと確信していました。その証拠に、参加されていた社員の方が全員HFHに寄付をしてくださったのです。もし、今後も英語でのプレゼンテーション機会をいただけるなら、プロロジスの時のように完璧にできればいいと思います。

—Kevin (G11A)

### HFH KIST ロゴTシャツ

HFH KISTロゴTシャツをご注文くださった皆さん、ありがとうございます。今回、217件のご注文を頂き、約200,000円を収益を得ることが出来ました。このお金は活動資金として役立てさせていただきます。



### ファミリーデー-HFHクジ・ラッフルブース

ファミリーデー(5月27日)にハビタットチームがコミュニティの皆さんに活動のことを知って頂くことと、資金調を目的にクジとラッフルのブースを設置しました。ハビタットのブースで寄付をしたくださった方は、近隣店舗やレストランからのご厚意で寄付いただいた景品や商品券、お食事券などが当たるクジやラッフルに参加いただけました。G11を中心としたハビタットメンバーはこの景品のために近隣(主に森下周辺)の店舗を訪問し活動の説明と支援のお願いをしてきました。各店舗からのご厚意へのお礼としてハビタットチームはメニューの英訳やブースでの店舗紹介などを行いました。これらの活動を通して、近隣店舗・住民の方々との関係も深まったと思います。また、商店街の皆さんも英語のメニューがあることによって、特に3年後に迫ったオリンピック時の外国人客への対応準備が出来たのではないかと思います。英語への翻訳などのお手伝いはインターナショナルスクールに通う私たちならではの地域への貢献だと思います。これらの活動は私たちにとって得難い経験となりましたし、コミュニティの皆さんのご支援、ご寄付に心から感謝しています。私達は、これまでのチームの活動と達成した数々のことに満足しています。そして最後にプロジェクトを大成功のうちに終わることが出来ることを願っています。



## スタッフ10!

今月のStaff 10!では2013年8月からエレメンタリー教師として勤務しているOliver Sullivanをご紹介します。Mr Sullivanは英国出身で、現在G3Aの担任です。CIS self-studyの期間中はCIS認可コーディネーターとしても活躍し、現在はエレメンタリーのLiteracy and Numeracy Assessment Coordinatorも務めています。



Mr Sullivanとお子さんたち

### ● 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷は英国のマンチェスターです。天気はひどい(雨が多くて寒いのです)かもしれませんが、とても良いところです。マンチェスターの人たちの人懐こさと、小さい範囲内に多くのものがギュッと詰まっているところが大好きです。一方、ロンドンは大きすぎて圧倒されてしまいます。マンチェスターはJoy Division、New Order、The Smiths、Stone RosesやOasisなど才能あるアーティストでも有名です。そして、もちろん世界最高のサッカーチーム、Manchester Unitedのホームでもあります!!!

### ● 世界で一番好きな場所はどこですか？

何と言ってもManchester Unitedのホームグラウンド、Old Traffordです。週末の午後に友人たちとよく行っていたのを懐かしく思い出します。今ではTVで試合を見るのに夜中まで起きていなくてはなりません。

### ● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

元ボクシングヘビー級チャンピオンのマイク・タイソンです。彼の人生は困難に満ちています(多くは自ら招いたものですが)が、彼が話すのを見るときもとても前向きで楽しい人物に思えるのです。是非彼と一緒に時間を過ごしてみたいです。

### ● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

小さい時に何回も鼻を骨折していたので、今は鼻の横を軽く叩くだけでカチカチと音を鳴らす事が出来ます。中々格好良く良くないですか？

### ● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

今よりもっと若かった頃、バンドでベースを弾いていました。かなりダークな曲調のものが多く、シンセサイザーやサンプリング音源を多用していましたが、ボーカルはいませんでした! 多くのステージで演奏し、楽しかったのですが、残念ながらあまり上手くはなかったと思います。

### ● あなたにとって一番の宝物は？

恥ずかしいのですが、私のいちばん大切な持ち物はティディベアです。彼はスター・ウォーズ:ジェダイの復讐に出てくるのキャラクター、イウォークで5歳の誕生日にもらったものですので、今年で33歳になります。実は娘の5歳の誕生日に素晴らしい状態の同じものをアメリカのコレクターから購入し、プレゼントしました。

### ● あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

“Risk-taker”(挑戦するもの)と言いたいところですが、実はかなり臆病者なので、“open-minded”(視野の広い人)でしょうか。これまで幸運にも世界中の様々な異なる考えを持った人たちと交流してきたので、偏った一方的な判断はしない人間だと思います。

### ● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

いいえ。これまで多くの間違いや失敗もしてきましたが、それも含めて今の私を形成しているのだと思いますし、今現在私は幸せな人生を送ることができています。若い時にもう少し熱心に外国語を学ぶ努力をしていればよかったとは思いますが、当時は外国語が必要になるとは思っていなかったですし、今から勉強するには忙しすぎるので無理でしょう。

### ● 自分を高めるために今やっていることは？

先程も述べていますが、今はとにかく忙しく時間がありません。2人の小さな子どもたちがいますので彼らのために時間を割かなければなりません。時々忍耐力に限界が来ることもあるのですが、努力はしているつもりです。

### ● ファンに一言お願いします。

ファンですか…、いないと思うのですが、もしいるなら、もっと良い音楽を聞いたり、良い映画を見たり、私なんかよりも素敵の人のファンになることをお勧めします。

# AMAZING!

KISTの10年生全員が先日PSAT試験を受けました。

試験結果が届き、いくつかの素晴らしい結果が得られたことを誇らしく思います。

**数学:** 生徒の73%が80%以上を取得しました  
**リーディングとライティング:** 生徒の62%が60%以上を取得しました

**総合成績:** 生徒の57%が80%以上を取得し、その内38%が90%以上を取得しました!

10年生の皆さん、良く頑張りました!

お子さんのためのPSATまたはSAT教材を探されているようでしたら、以下Khan Academyサイトから無料でCollege Boardのオンライン公式SAT教材をご覧いただけます。

<https://www.khanacademy.org/sat>

## 保健便り

### 子どもが学校に来たがらない時

不登校とは、子どもが一定期間学校に来ることを拒んだり、学校にいたことが困難な状況にある事を言います。不登校には幼稚園児の軽い分離不安から、不安感やうつ状態により数週間、または数ヶ月に亘り登校することが出来ない重症のものがあります。

不登校は決してズル休みや無断欠席と同じものではありません。後者の生徒は精神的な苦痛を感じる事がなく、違法行為やゲームセンター通いまたは友人たちと遊び回るなどの行為を行う傾向にあります。

### 不登校の生徒の特徴

不登校は精神疾患ではありません。しかし、不登校の生徒の中には顕著な精神的苦痛を感じ、特に不安やうつ状態にあることが多いです。

### 不安感

不登校は分離不安や社会的・対人不安(人前で話すことに対する不安)、受験、体育競技への参加、学習面での挑戦に対する困難を伴うことが多いです。生徒は登校を拒否したり、不安を与える行為から逃避したり、保護者や他の人達の関心を集めるような行動に出たりします。生徒によっては学校を、冷たく、自分を受け入れてくれない環境であるように捉え、失敗体験に満ちた場所であると感じます。また、生徒によってはいじめや精神的な苦痛を受けた経験から、学校を安全でない場所と認識してしまいます。

### うつ

生徒たちは落ち込んだ様子を見せたり、活動に興味を示さなかったり、イライラしたり、他の生徒との関わりを困難に感じたり、反抗的又は挑戦的な態度を取ったりします。また、睡眠障害や身体的な不調、だるさや倦怠感を感じることもあります。また、不適応感や過剰な罪悪感、集中力や決断力の欠如、死や自殺願望などを示すこともあります。うつ状態にある生徒は不安感のみが表れている生徒よりも深刻な状態を示すことが多いですが、大多数の生徒が不安とうつの複合症状を示す傾向にあります。

### 身体的な不調

生徒によっては毎日頭痛や腹痛を訴えて保健室に来室します。最初は喘息など実際に疾患によって欠席した生徒が、その後、学校に復帰することへの不安などから身体的には回復しているにも関わらず登校を拒否するケースも見られます。保護者の皆さんには、お子さんが学校に復帰するにあたり行動などの制限があるかを医師に確認して下さい。

### 保護者が出来ること

- ⇒ リラックス、問題解決、マイナス思考の軽減、健康的な行動などの対処法を指導してくれる認知行動学・メンタルヘルスの専門家のサポートを提供する
- ⇒ 重度の不安感やうつ症状を示す子どもに対し、診療を受けさせ、適切な投薬を行う
- ⇒ 短時間でも子どもを登校させ、時間をかけて徐々に慣らしていく
- ⇒ 前向きな態度(参加意欲や努力)を強調し、マイナスな態度(泣く、不平を言う)などは無視する
- ⇒ 自身の不安などの感情について話す機会を提供し、軽減させる
- ⇒ 子どもに対するサポートシステムを確立する。お子さんをサポートできる人材はたくさんいるはずですが;家族や教師だけでなく、他の子供達もお子さんのサポートをしてくれるはずですが



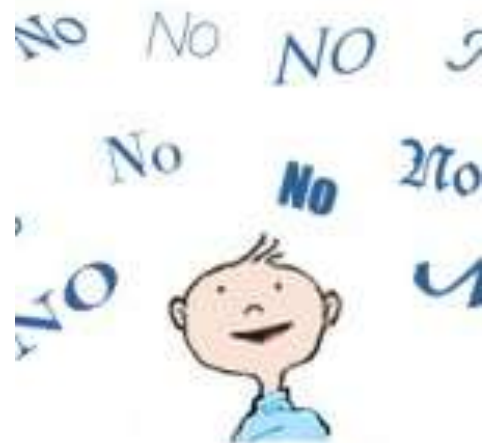
長期に亘る不登校は深刻な社会的教育的問題につながるおそれがあるため、教師、保護者、アドミニ、サポートスタッフ、そして必要に応じて医師による迅速で適切な対応が求められます。

**Stephanie Pae**  
School Nurse

#### 参考資料:

Anxiety and Depression Association of America, <https://www.adaa.org/living-with-anxiety/children/school-refusal>

Mary Wimmer, Helping Children at Home and School III: Handouts for Families and Educators (NASP, 2010)





## 震災支援

### 東日本大震災への継続的サポート

東日本大震災の発生からすでに6年が過ぎましたが、KISTでは発生当初から物資の寄付や炊き出しで継続して被災地の子どもたちを支援してきました。現在も継続した支援として毎年その時期にフリースデー（日本の国旗の色である赤と白をテーマ）を実施し、その参加費用を宮城県に寄付をおこなっています。2017年は71,362円を震災孤児支援のために『東日本大震災みやぎこども育英募金』へ募金することができました。参加してくださった生徒およびスタッフの皆さんありがとうございました。KISTの寄付に対して村井嘉浩宮城県知事よりお礼状をいただきましたので、皆さんと共有させていただきます。

拝啓 新緑の候ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

県政運営につきましては、日頃格別の御理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、お申し出のございました東日本大震災に係る震災孤児等の支援のための寄附金につきましては、心から感謝を申し上げ、お受けいたしますとともに、被災した子どもたちの支援のため有効に活用させていただきます。

私もふるさと宮城を再興するため、県民の皆様と共に手と手を携えて全力で震災復興に取り組んでまいります。

今後とも、県政の推進につきましては、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成29年5月2日

学校法人 ケイ・インターナショナルスクール

理事長 小牧 義重 様

宮城県知事 村井嘉浩

## 大学ガイダンスニュース

皆様お元気ですか？今年のKIST卒業生も素晴らしい大学合格実績を達成しました。先日のファミリーデーの大学進学ブースにあったリストをご覧になったかたもいらっしゃると思います。最終リストは次号のニューズレター *The Comet* September 2017 に掲載します。2017年度卒業生の皆さん、おめでとう！今後の活躍を期待しています！

### KIST Spring University Fair on March 20 in the KIST gymnasium

お蔭様で今年の春の大学フェア也大盛況でした。KIST全校からの数百名の参加者の他に、日本にあるインターナショナルスクール数校から複数の生徒、保護者、カウンセラーの方が来られました。今年は25大学が参加し、主に日本にある大学で、英語のプログラムを提供している大学または、通常の日本語プログラムの入試方法としてIB特別入試を採用している大学をお招きしましたが、オーストラリア、カナダ、ヨーロッパから3大学も参加されました。それぞれのブースで大学代表者の方から直接情報を得ることができたのではないかと思います。今年もPAオフィサーにはたいへんお世話になりました。フェア後のレセプションと代表者の方々へのリフレッシュメントをご用意いただきました。ありがとうございました。

### Mrs Okude attends Oxford University information session in Hong Kong

香港のあるインターナショナルスクールのカウンセラーからのご招待を受けて、4月下旬にその学校で開催されたオックスフォード大学の説明会に行ってきました。日本からの出願者数があまりに少ないために、日本には来る予定がないというオックスフォード大学のアドミッション担当者に直接お会い出来るまとない機会でした。この大学に興味がおありの方は、ご連絡ください。よろこんで情報を共有させていただきます。

### Mrs Okude's visit to the Chinese University of Hong Kong

香港中文大学は香港大学、香港科技大学とならぶ香港にあるトップ3公立大学です。



「大学」という名前の駅にある香港中文大学

今回、中文大学の中国研究センターを訪問し、同センターの Jan Kiely 教授にお会いして、いろいろとお話を伺いました。これで、3大学すべてを訪問したことになります。それぞれの特徴や相違点を説明することができるようになりました。



香港中文大学 Jan Kiely 教授と

### Mrs Okude's visit to International Christian University



Ayaka と Nino ICUキャンパスにて

5月に開催された、国際基督教大学の説明会に参加してきました。毎年、この時期に日本にあるインターナショナルスクールのカウンセラーを対象に説明会とキャンパスツアーが行われます。今年は理学部の教授がサイエンスホールをくまなくご案内してくださいました。キャンパス内に完成したばかりの寮も拝見しました。ツ

アー中にはKIST 2016年度卒業生で現在ICUで学んでいる Ayaka と Nino に偶然会うことができました。ふたりともキャンパスライフをエンジョイしている様子でとても嬉しかったです。

### KIST alumni talks—Motoi, Jiaying, Muskan and Pranita (Class of 2016), and small reunion in Hong Kong

たぶんこれは本校の良き伝統であり文化だと思いますが、休暇などで帰国した卒業生が、よく学校を訪ねてきてくれます。3月にはニューヨーク大学アブダビ校で数学を勉強している Motoi (2016年度卒)、4月にはロンドンのセント・ジョージズ大学医学部一年生の Jiaying (2016年度卒)、5月にはアメリカ、ニュージャージー州にあるラドガーズ大学で心理学を学んでいる Muskan (2016年度卒)とイリノイ州のイリノイ州立大学アーバナシャンペイン校に進学し、会計学を勉強している Pranita (2016年度卒)が学校に来て、セカンダリースクールの生徒にそれぞれの体験を話してくれました。Motoi, Jiaying, Muskan, Pranita ありがとう！

次のページに続く



## 前ページの続き

それから、4月に香港に滞在した際、ちょっとしたKIST同窓会が開催されました。Disha (KIST 2010年度卒、香港大学2013年度卒)とAneeza (KIST 2010年度卒、SCAD 香港2014年度卒)と三人で、香港中心街にあるクールな(とっても辛い!!)中国料理店でディナーとおしゃべりを楽しみました。ふたりとも香港で良い仕事に就いていて、香港ライフを楽しんでいることを確かめることができました。



DishaとAneezaと一緒に  
香港KIST同窓会

### Open campus and information sessions

夏は大学キャンパスを訪問するのに最適なシーズンのひとつです。オープンキャンパス、説明会、キャンパスツアーなどのスケジュールは各大学のウェブサイトをチェックしてください。KISTの [University Guidance Calendar](#) にも情報は載せませんが、限りがありますので。

では、良い夏休みをお過ごしください。8月にまたお目にかかるのを楽しみにしています。

**Mrs Keiko Okude**  
Career and University  
Guidance Counselor  
Office hours: Mon, Tue, Thu,  
Fri 10:00-17:00  
[keiko.okude@kist.ed.jp](mailto:keiko.okude@kist.ed.jp)



## 卒業生の声-1

Muskan はKISTの「2016年度卒業生」です。彼女は現在アメリカのRutgers Universityの文学士および理学士過程1年目に在籍し、心理学を専攻しています。



Muskan(右)と友人たち

私は大学での最初の一年間で多くの事を経験をしました。大学の環境や新しい暮らしには多くの期待を寄せていましたが、次第にここでの暮らしに馴染んでいきました。大学に入って感じたのは、ニュージャージー州、特にRutgers大学を取り巻くニューブランズウィックの町と、東京の人たちとの差です。この人たちは自身の意見を強く主張し、積極的です。また、この大学に所属していることに誇りを持っていて、ここでの様々で行事を見たり、実際に参加する事でコミュニティの一員としての意識が生まれます。

コミュニティといえば、私の大学は本当にたくさんの課外活動を提供しているので、さらに多くの、密接なコミュニティの所属することが出来ます。私はできるだけ多くのクラブやイベントに参加することにしていました;多くの文化系クラブや、ダンスグループに参加し、公演やに参加したり、サモサの大食いコンテストのような一風変わったイベントも観戦しました。これらクラブに参加することで、授業や学習と、息抜きのバランスを取り、常に何か楽しみな、自分へのご褒美のようなことを準備することが出来ました。

授業もとても楽しんでます。特に、自分の専攻とは直接関係していないけれど興味のある分野の授業も選択することでさらに楽しい毎日を過ごせています。幾つかの研究にも関わったことで、他の生徒達や彼らが情熱を傾けている他分野についても学ぶことが出来ました。

これから大学に進学する皆さんへのアドバイスは、学習と息抜き・楽しみのバランスをとることです。私自身は授業のない日を3日間確保するようにしました。これまでの2学期間は、金曜日の授業は履修しませんでした(これを他の生徒に自慢するのが楽しいです)。私の友人の中には2-3週間おきに丸一日一切勉強をしない日をつくるか、絵を描くとか、自分のための楽しみを用意している人たちもいます。自分のための楽しみを用意することはとても重要だと思います。

これまでは本当に素晴らしい毎日を送ることができています。これからもそうであることを期待しています!

**Muskan**  
KIST Alumnus, "Class of 2016"



## 卒業生の声-2

Pranita はKISTの「2016年度卒業生」です。彼女は現在 University of Illinois in Urbana-Champaign の理学士課程1年目に在籍し、会計学を専攻しています。

### University of Illinoisでの一年目

大学は成長に不可欠な要素です。ここで経験することは自身の人格形成や専門性の獲得につながります。University of Illinois at Urbana-Champaignでの1年目は私自身の将来の進路を定めるのに重要な役割を担うであろう様々な変化や困難が溢れていました。

新しい友人を作ること、新しい文化に適應すること、社交と学業のバランスをとることなど、ここでの1年目は私の人生の中で最も波乱に満ちたものでした。大学での最初の1週間が既に人生を変える変化の連続でした。私は今までこれほどの自由と自立を感じたことはありませんでした。何を食べても、飲んで、やっても、やらなくてもうるさく言う人はだれもいません。このことに気づき、私は自立するということは大きな責任を担うことなのだとして初めて実感したのです。私が自分の自由な時間の中で選択したことはそのまま一人の人としての私を形作るものになるのです。

1学期は私の人格的な成長を中心に全てがまわっていたように思います。当初の私の目的はできるだけ多くの人と知り合い、多くのことを経験する

ということでした。50,000人近くが在籍するキャンパスでは人に出会うための機会は無数にあります。また、いつでも何か楽しいことがたくさんあります；例えば、Canopy Clubのコンサートに行ったり、Illinoi Unionでビリヤードやボーリングをしたり、Green Streetで食事をしたり、Courtyard caféで夜のカラオケに興じたり、などです。

家から遠く離れるということは最初は辛かったので、キャンパス内で多くの楽しいことがいつも提供されていたのがありがたかったです。また、同じ授業やゼミ、同じ寮、そして最初の日に留学生オリエンテーションで、多くの素晴らしい人達に出会えたのも幸運でした。

2学期までには大学に「落ち着き」、集中して専門的な学習をする体制が整いました。将来の職業についてはまだ決め兼ねているところもあるのですが、Business Career Services at Illinoisを活用して、将来的なキャリアを見据えた成長に専念しました。そこで、初めてあったときから私の大切な友人であり、メンターでもあるMark Williamsに出会いました。また、Illinois Leadership Centerで開催されているワークショップにも出席し、



ネットワーク、コミュニケーション、管理、その他多くのスキルを活用し、より良いリーダーとなるためのスキルを学びました。さらに、SCNO (Students Consulting for Nonprofit Organizations)、The Finance Club、ActGreenなどの活動に積極的に参加し、私の関心のある分野の知識を更に深めるようにしました。

一年前にKISTを卒業し、友だちや先生がと別れるのはとても悲しいことでした。でも、その別れの後でこんなに素晴らしい経験の数々が待ち受けているとは思ってもみませんでした。新しい経験や、数々の困難や挑戦のおかげで、私は自分自身をよりよく知り、どのような自分になりたいかに気づくことができました。そしてもっとも重要なことは、私が、次の変化が訪れるまで、自信と誇りをもって、University of Illinoisを「ホーム」と呼ぶことができるようになったことです。

**Pranita**  
KIST Alumnus, "Class of 2016"



Pranita (左から4番目)と友人たち



# ファミリーデー 2017

5月27日(土曜日)





KIST on Stage 2017

6月9日(金曜日)

